

# 選考をふりかえって

「エッセイ部門」 高校生の部 選考長 小川洋子

今回の受賞作品はどれも、自分とは何者か、人間とは何か、という根源的な問題に向きあったものばかりで、その真摯な態度に感動しました。

最優秀賞、与謝野久璃子さんの「グットモーニング、不良少女」は、思考と感情と行動が全部バラバラになった、弱っちい、自分を、客観的に見つめる距離感が絶妙でした。あらゆるものを冷静に観察する視線が、余裕のあるユーモアを生んでいました。何気なく入った喫茶店のマスターとおばあさんの短いやり取り、犬とのふれあい、美味しいモーニングセット。そうした、外の世界に存在する何かに気づくことで、書き手は新たな意欲を見出してゆきます。自分自身について考えるためには、自分から距離を取らなければならない、という真理を見事に表した作品です。

優秀賞の和田笑美花さん、「電車の中の一コマ」も、他者を通して自らと対話しています。見知らぬ人々のやり取りから生まれる、不思議な連帯感が生き生きと描写され、自然と気持が明るくなってきました。

同じく優秀賞の井上遼太さん、「忘れられない瞬間」は、お兄さんの記憶を誠実に心に刻みつける作品です。車や犬から守るようにして弟に寄り添っていた、優しいお兄さんの姿が目に見えませんでした。こうして文章にすることにより、大切な記憶がより深く心に染み入り、井上さんの支えとなるよう、祈らずにはいられます。

佳作は高橋健太さん、中田健太郎さん、寺嶋直さんです。「僕のふるさと」で印象的なのは、軽トラで図書館へ迎えにやってくるおばあさんです。祖母山の素晴らしさとおばあさんの存在感が重なって見えました。「太平洋のどまんなか」は、タイトルの大胆さが魅力です。ソロモン諸島の大らかな雰囲気伝わってきます。「秘密基地」は、お兄さんとの微妙な関係が細やかに描かれていました。秘密基地で過ごした時間は、これからずっと変わらず、二人をつないでゆくでしょう。